

地域密着型金融推進計画

平成17年8月30日

株式会社 東和銀行

地域密着型金融推進計画』目次

・地域密着型金融推進計画の基本的な考え方	P 1
1.基本方針	P 1
2.集中改善期間(平成15年度～平成16年度)の取組み	
(1)取組みの概要と評価・分析	P 2
(2)集中改善期間における企業再生支援(ランクアップ)の実績	P 3
(3)今後の課題(集中改善期間中の評価)	P 4
3.重点強化期間(平成17年度～平成18年度)の取組み	
(1)当行の目指す姿	P 5
(2)目指す姿達成のために	P 6
(3)目標とする経営指標	P 7
・地域密着型金融推進計画	P 8

地域密着型金融推進計画の基本的な考え方

1. 基本方針

事業再生・中小企業金融の円滑化

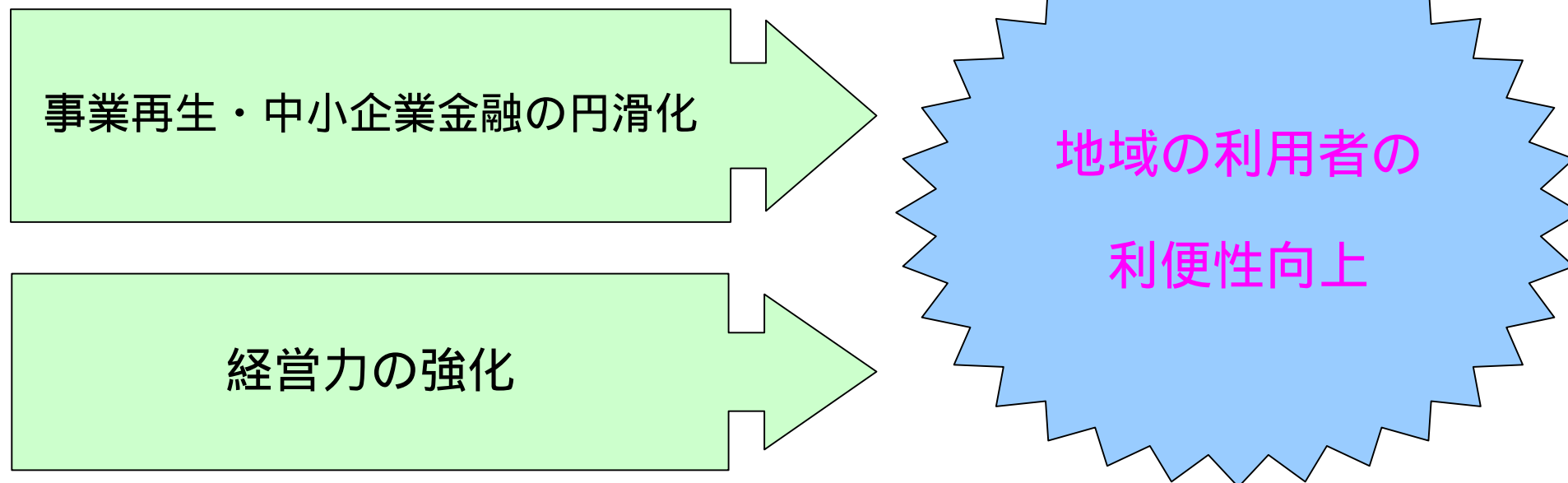
経営相談・支援機能等の強化に取り組むとともに、無担保事業ローンの推進等による地域金融の円滑化に寄与する。

経営力の強化

リスクに見合った収益を上げることが主眼としつつ、行内態勢の強化を図る。

地域の利用者の利便性向上

地域取引先のニーズを適格に捉えた営業を展開する。



2.集中改善期間(平成15年度～平成16年度)の取組み

(1)取組みの概要と評価・分析

中小企業金融の再生に向けた取組み

創業・新事業支援機能の強化

業種別審査態勢の強化(審査案件のデータベース化するシステム構築等)
将来性や企業力を評価できる人材育成(「目利き研修」への参加、外部・内部研修の受講)
産官学とのネットワークの構築(群馬大学との産学連携を含む包括協定の締結等)

取引先企業に対する経営相談・支援の強化

経営情報やビジネスマッチングの情報提供。各種セミナーや講演会の開催
企業支援室や要管理プロジェクトチームを設置し、経営改善支援体制を強化
(15年4月～17年3月のランクアップ45社)

早期事業再生に向けた積極的取組み

中小企業再生支援協議会への協力と活用(窓口相談員として行員出向)
事業再生のための各種手法の研究・検討(中小企業再生ファンド、DIPファイナンス、RCCの
信託機能の研究・検討など)

新しい中小企業金融への取組みの強化

担保・保証へ過度に依存しない融資の促進等(財務データに基づいた保証協会との提携
ローンを7商品発売)
信用リスクデータベースの整備(個人版CARMシステムの導入等)

顧客への説明態勢の整備、相談・処理苦情機能の強化

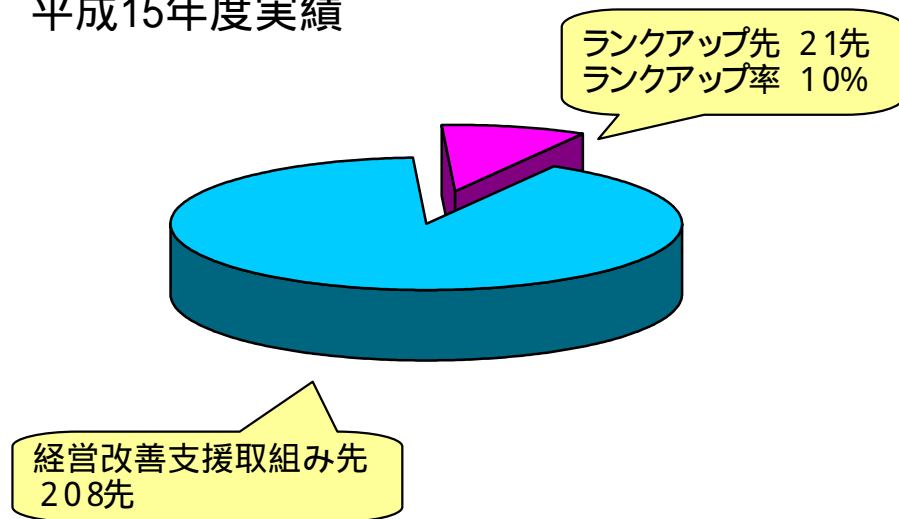
重要事項に関する債務者への説明態勢の整備
(事務手続の整備、銀行取引約定書のご案内・制定、各種研修実施)
苦情・トラブル事例による研修実施

(2) 集中改善期間における企業再生支援 (ランクアップ) の実績

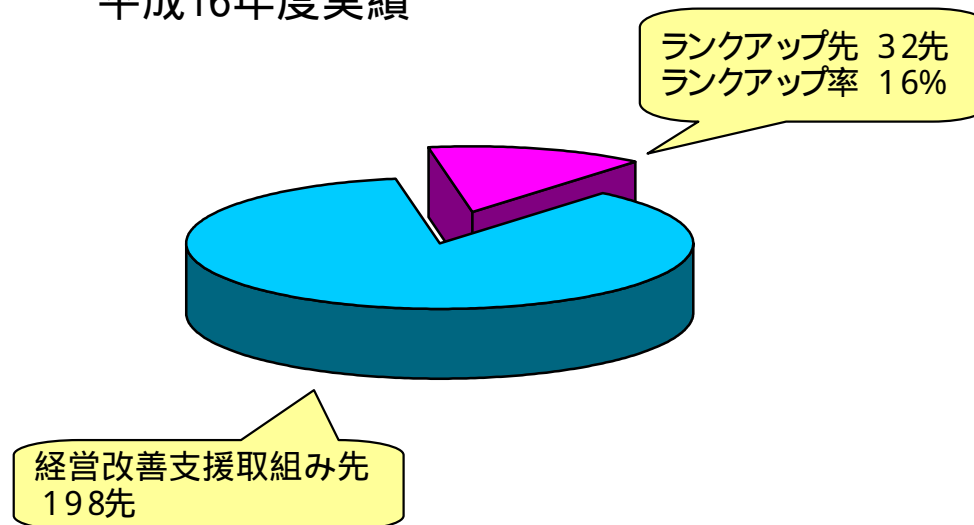
お取引先企業の財務内容の健全化を図るための経営改善指導と、企業再生のための支援を強化するため、2003年7月に「企業支援室」を、2004年9月に「要管理先改善プロジェクトチーム」を設置するなど、経営改善支援体制を強化してまいりました。

こうした経営改善支援の強化により、支店・本部スタッフが一体となって、経営上の問題点を把握した上で、改善計画等をご提案し計画の実行状況をサポートするなどして、地域企業の再建支援に貢献するとともに、当行の債権内容の良化を図ってまいりました。

平成15年度実績



平成16年度実績



上記、平成15年度と平成16年度のランクアップ先の合計 (53先) がP. 2の2年間の合計 (45先) と一致しないのは、期初毎に取組み先を見直ししているためです。

(3)今後の課題 (集中改善期間中の評価)

経営の効率化と収益性力強化に向けた店舗配置の見直しと人員の圧縮により、1,600名体制(平成18年3月末人員目標)をほぼ前倒して達成。

個人向貸出は住宅ローンと無担保ローンを中心に取り組んだが、期間中の残高は横這い。強化対策が必要。

中小企業向け貸出は、平成15年度の大幅な減少により、期間中2年間の残高推移は減少となったが、担保・保証に過度に依存しない「ニューパワーローン」の販売が好調に推移し、平成16年度は増加に転じた。引続き拡販に努める。

預金は期間中197億円増加し、良好な成果。

ディスクロージャー誌やミニ・ディスクロージャー誌等により地域貢献について、積極的に情報開示。

「集中改善期間」スタート時は、3期連続赤字決算及び2期連続無配であったが、その後、2期連続で黒字決算と復配を達成。経営の健全性向上と収益力の強化を実現。

取引先支援体制の整備として、補助金のつなぎ融資「東和技術支援資金」の制定や、「ぐんまチャレンジファンド」への出資を実施。具体的な活用が今後の課題。

全体的な実績の評価として、満足できる実績が残せた項目もあったが、未達成の項目もあり十分に満足できるものではなかった。

3.重点強化期間(平成17年度～平成18年度)の取組み

(1) 当行の目指す姿

当行は、強固な収益基盤を構築することが最重要課題であると考えています。そのことにより、株主からの信頼を確保し、併せて、地域からの信頼に応えることのできるリレーションシップバンクへの基礎がためができるものと考えています。

当行では金融仲介機能強化に向けた体制の整備を図るとともに、取引先の経営改善指導によるランクアップ、また、中小企業支援協議会や再生ファンドを活用した事業再生に積極的に取り組み、当行の収益性の向上を図ってまいります。

主要取組み項目

事業再生・中小企業金融の円滑化

- ・「東和技術支援資金」の推進
- ・「ぐんまチャレンジファンド」の推進
- ・経営改善支援先のランクアップ
- ・再生手法を活用した事業再生の取組み
- ・担保・保証に過度に依存しない融資「ニューパワーローン」の推進

経営力の強化

- ・統合リスク管理の態勢整備と実施
- ・新収益管理システムの導入
- ・内部管理態勢の充実・強化
- ・ITの戦略的活用

地域の利用者の利便性向上

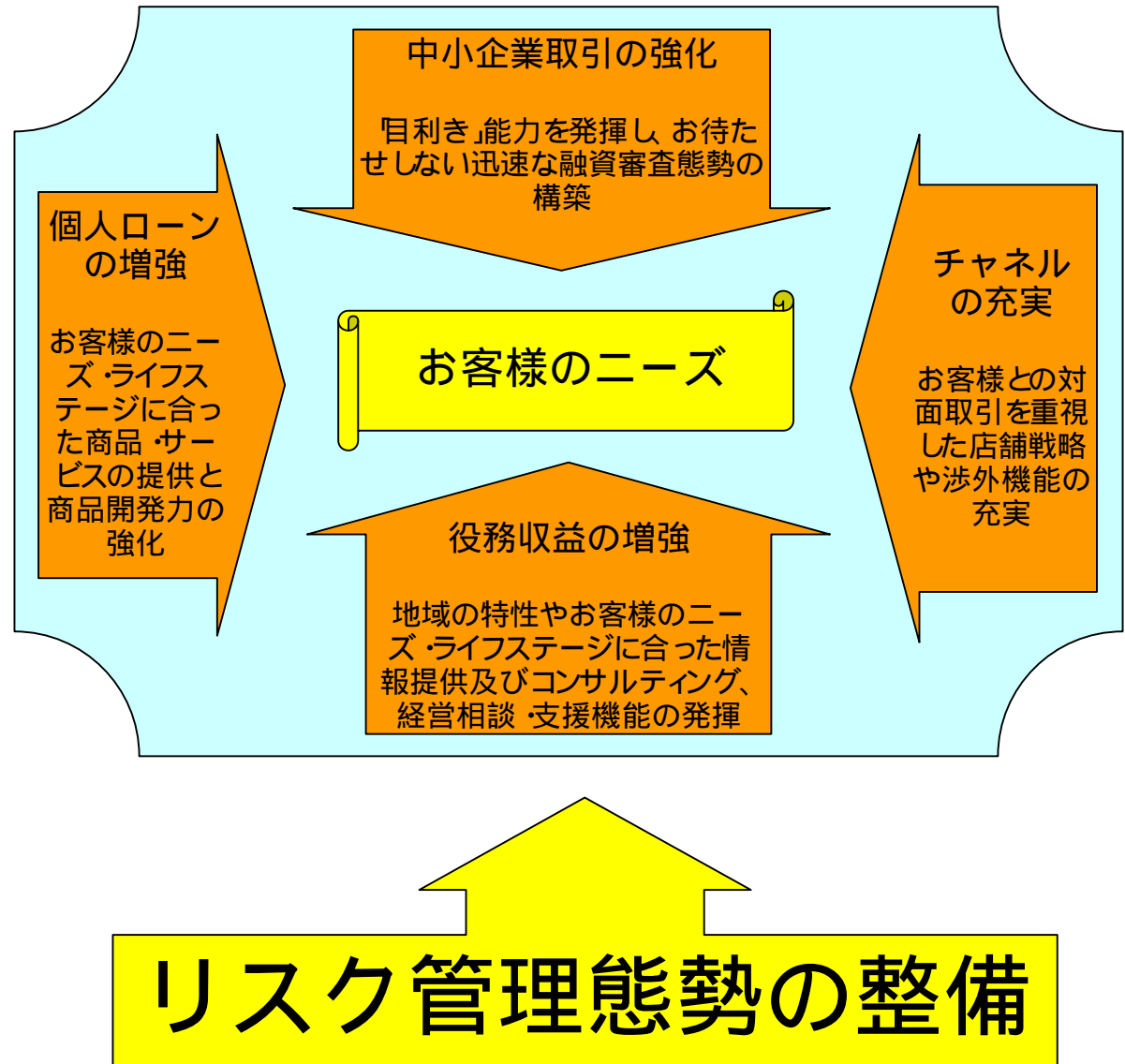
- ・地域貢献に対する情報開示
- ・顧客ニーズに合わせた商品の開発
- ・地域再生推進への積極的な取組み

(2) 目指す姿達成のために

経営理念

- 1. 役に立つ銀行
- 1. 信頼される銀行
- 1. 発展する銀行

当行は、内部管理態勢の充実・強化に全力で取り組み、地域金融機関としての使命である地域の皆様に愛され、社会の発展に貢献する「役に立つ銀行」を目指し、お客様のニーズを知り、満足のいただけるサービスの提供を行ってまいります。



(3) 目標とする経営指標

項 目	経営指標等	目標計数 (重点強化期間中)
1.産官学の連携強化	東和技術支援資金実行	6 件
2.ベンチャー企業向け業務の推進	ぐんまチャレンジファンド 案件発掘	6 件
3.コンサルティング 機能強化	M&A業務案件発掘	3 件
4.経営改善支援先 のランクアップ	ランクアップ目標	80 件
5.事業再生取組み	事業再生取組み目標	8 件